



Engine Manufacturer Testing and Rookie Driver Tryouts Report 2017/12/6～7 SUZUKA

シーズン最後の走行となる 2017 年エンジンメーカー／ルーキーテスト。FIA F2 や FIA ヨーロピアン F3 に参戦していたドライバーなど、国内外から多くのルーキードライバーたちが、レギュラードライバーたちとともに参加する世界的に注目されるテストは、寒波による冷え込み厳しい鈴鹿サーキットで開催された。

DOCOMO TEAM DANDELION RACING は、エース野尻選手に加え、ヨーロッパ FIA F2 選手権に 3 年参戦し、今季ランキング 6 位の松下信治を起用しテストに臨んだ。

晴天だが路面温度は 7℃程と、タイヤのウォームアップが難しいコンディション。特に松下選手は、SF の車体とエンジン、ヨコハマタイヤやコースに慣れながら、徐々にタイムアップしていく。野尻選手は基礎データ取得と、新セットアップの確認などを中心に、1 日目のメニューを消化する。

テスト 2 日目も安定した天候。野尻選手は今シーズンの振り返りと同時に来季へつながるテストメニューを精力的にこなしてゆく。松下選手は早くもスーパーフォーミュラの感触に順応し、午前中から好アタックを見せ、野尻選手と供に好調ぶりを見せつける。

赤旗による中断が多かったが、午後のセッションも 15 分を残した時点で 2018 スペックのソフトタイヤを装着しタイムアタックへ。野尻選手は 2 番手で、ダンディライアの SF14 車両 初ドライブながら安定したドライブを見せた松下選手は 5 番手で、2 日目午後の走行を終えた。2 日間の総合順位は、野尻選手 6 位、松下選手 10 位。

40 : 野尻選手 総合 6 位 HONDA 勢 3 位

テスト初日は、現状の基礎データ確認と新セットアップのトライを中心にメニューを消化しました。2 日目には、来季に向けたセットアップの良し悪しを理解することができ、テストらしいテストが出来ました。2 日間通して速さを維持できましたが、オフシーズン中にデータを解析して、この結果を来シーズンの速さに繋げることが本当に重要な作業です。気持ちを緩めることなく、来季に向けてしっかりと準備をします。

41 : 松下選手 総合 10 位 HONDA 勢 5 位

FIA F2 と比較して、ダウンフォースもタイヤのグリップも衝撃的に高く、ドライビングも修正しなければならず、初日はその部分に注力しました。野尻選手が速く、そのデータも参考にできましたし、吉田エンジニアも的確に問題を解決しテストを進めてくれたので、2 日目は様々なトライをしながら、SF を理解することが出来ました。来季はスーパーフォーミュラで、自身の実力を証明したいです。